

## B分科会：総合型地域スポーツクラブについて（実務編）

今回は実務編ということで、理念や在り方から一步踏み込んで、実際のクラブ経営について報告・ディスカッションが行われた。

会はず、座長である福島大学の黒須充教授より、総合型地域スポーツクラブの現状について説明がなされた。その後、所沢市西地区総合型地域スポーツクラブ、NPO法人ニッポンランナース、NPO法人調和SHC倶楽部の3つの事例が各パネリストから紹介・報告された。

全体を通じて経営資源といわれる「ヒト・モノ・カネ」という視点でディスカッションが行われた。

「カネ」の部分については toto の補助金を受けていたという点で3クラブとも共通していた。自主財源となる会費については月300円から6000円程度まであり、「会員に対し、クラブに加入するメリットについて具体的に示すことによって快く払ってもらえるようになるのではないか。」との意見が出された。3クラブに共通する目標は、補助金がなくなってもクラブ存続することであった。そのために全体予算に対する自主財源の割合を高めること、つまり会員のさらなる獲得であった。

「ヒト」については、3クラブとも専任のスタッフを配置していた。しかし、いずれも長年に渡ってクラブ運営に携わり、生活していくには困難な金額しか支給できていないのが現状で、クラブの継続した発展のためには安定した自主財源の確保が必要である

そして「モノ」ということについては、地域の既存施設の強みを生かしたクラブ運営をしていくことが、クラブの魅力に繋がっていくのではないか。クラブが使用する施設を自分達で造っていくということまで考えているクラブもあった。

「Cool Head & Hot Heart (冷静な頭脳と熱い心)」という言葉があるが、まさに事業を行う経営体としてのクールな側面と、家庭や家族というような温かい人間関係が演出されるホットな側面の両方を併せ持つようなクラブを今後築いていったら良いのではないかとまとめた。